

## 第4章 基本方針（案）検討

---

本章では、前章までの整理を踏まえ、基本方針（案）として、美里公園の概要と整備における基本的な考え方を整理した。

### 第1節 美里公園の概要

#### 1 美里公園の概況

美里公園は、市街地の中心に位置し、美原小学校と隣接する近隣公園である。園内は、園路や遊具施設、バスケットコート、スケートボード広場、大型東屋等の設備が充実している。

主にウォーキングやジョギングなどの運動をする近隣住民や学校帰りの児童に利用されており、健康増進やこどもの遊び場などの日常の憩いの場となっている。また、公園南側に位置する乗降場は、乗用車で来園する人の駐車スペースとしても利用されている。

さらに、扇形広場や芝生広場を中心として、軽トラ市、ピースフルキャンドルナイト、七夕まつりといったイベントが定期的開催されている。

#### 2 上位関連計画による位置づけ

「沖縄市都市計画マスタープラン」（令和2年3月）では、美里公園が位置する中部北ゾーンでは、「地域交流が盛んで良好な住宅まちづくり」の目標像が掲げられている。また、ゾーン全体に関する方針として、「歴史的・文化的資源の保全や活用」が位置づけられている。

「沖縄市景観計画」（平成25年12月）では、土地区画整理事業により整備された魅力ある新市街地として、「潤いと人々が愛着を持てる住宅地景観の形成」が掲げられている。

「沖縄市美里土地区画整理事業竣工記念誌」（平成28年3月）では、美里公園は「暮らす人々が集い、遊び、楽しめる場所」として、まちづくりに貢献できる空間配置が目指されていた。

これらの上位関連計画等を踏まえ、美里公園は、日常的な憩いの場としての機能を担うとともに、地域の歴史や文化を継承し、人々が愛着を持って利用し続けられる場としての役割を果たすことが求められている。

### 3 公園利用者の声

美里公園の利用者アンケート調査の結果によると、ウォーキングができる園路や子どもが楽しめる遊具があることが良い点として挙げられた。

一方、改善点として、園路やバスケットコートゴムチップ舗装修繕、遊具の修繕・充実、トイレの洋式化、扇形エントランスの有効活用などが求められている。加えて、売店や駐車場、日陰・休憩所などの整備を要望する声も多い。

また、イベント参加のための利用やイベントが開催される公園を評価する意見も多く、地域交流の場としてのニーズがあることがうかがえる。

### 4 官民連携手法の活用可能性

「沖縄市公共施設等総合管理計画【改訂版】」（令和4年3月）では、公園の管理方針の一つとして、維持管理コストを縮減しつつ、都市公園の質の向上と利用者の利便性向上を図るため、民間活力（Park-PFI など）の導入検討が掲げられている。

美里公園は災害リスクが極めて低い場所であるとともに、周辺人口や来訪者、公園に面する道路の交通量が多い。また、公園敷地が平坦で周辺道路からの視認性が良いことから、市内他の近隣公園と比較して民間の参画可能性が高く、特に売店や飲食店等のニーズが想定されている。

一方で、公園の大半が第一種低層住居専用地域となっているため、第一種低層住居専用地域の用途制限が適用され、便益施設を整備する場合は建築審査会に諮る必要があり、周辺の住環境に十分配慮した整備を行うことが求められている。

## 第2節 美里公園の整備における基本的な考え方

### 事業コンセプト（案）

## 暮らしがまざり 人がつながる “美里(ンザトゥ)ゆくいなー”

多様な地域住民が日常的に訪れ、過ごすきっかけをつくるとともに、滞留空間や動線の重なりによって交流が生まれ、新たな活動や利活用へ発展していく公園を目指す。

### 1 公園利用者の滞在・休憩・交流の質を高める売店等公園機能の拡充

利用者ニーズや民間の参画可能性を踏まえ、売店や飲食店などの便益施設を整備することで、公園の滞在・休憩・交流の質向上を図る。便益施設の導入にあたっては、公園空間との一体的な利用を意識しつつ、民間事業者の創意工夫を活かした魅力的な施設整備を促すものとし、幹線道路沿いの南西エリアに配置する。

### 2 ウォーキングやこどもの遊び等、現在の利用環境の向上

再整備にあたっては、既存動線や周辺住宅地への影響に配慮し、これまでの利用を妨げないことを前提とする。あわせて、今後も地域の身近な憩いの場としての機能を果たすため、日常的に利用されてきた機能の維持・改善を図り、周辺住民にとってより快適で魅力的な公園となることを目指す。

### 3 新たな公園機能の拡充や利用を支える駐車場の補完・マネジメント

近隣公園として徒歩圏利用を基本としながらも、再整備によって地域外からの利用者の増加も想定されることから、利用実態に応じた駐車場の補完を行う。周辺道路や住宅地への影響に配慮しながら、来園者が安全かつ円滑に利用できるよう、駐車場の配置や利用方法について適切なマネジメントを行う。

### 4 誰もが安心して日常的に利用できる快適な公園環境の形成

子育て世代からシニア世代まで多様な人々が日常的に訪れる公園として、誰もが安心して心地よく過ごせる環境づくりを進める。駐車場や日陰・屋根付きの休憩空間の確保、防犯対策など、利用者が安全・快適に過ごせる環境を整備する。

### 5 地域との関係を育み地域価値の向上に資する持続的な取組

地域の住民や生産者などと連携して公園の再整備・運営を実施し、地域のにぎわい創出に寄与することを目指す。日常の憩いの場だけでなく、地域交流の場として、これまでに実施されてきたイベントを継続して実施するほか、新たに整備する施設を生かした企画により、相乗効果を図る。

